

GUIDE BOOK 2020

AC入試・特別入試

IMAGINE
THE
FUTURE.

AC入試

p.01

国際科学
オリンピック
特別入試

p.04

国際
バカロレア
特別入試

p.07

海外教育
プログラム
特別入試

p.07



筑波大学
University of Tsukuba

AC入試

(アドミッションセンター入試)

- ✓ 自己推薦型(書類+面接)の入試です。
- ✓ 自分で課題を見つけ、解決する能力を評価します。
- ✓ 現役生、過年度生、社会人。大学入学資格を持つ方を広く対象としています。

アドミッション・ポリシー

志願者の主体的で継続的な取り組み(最近2年間、又はそれ以上の長期間にわたるもの)から「問題解決能力」を評価します。この入試の合格者にふさわしい志願者がいないと判断した場合は、募集人員どおりに合格者を決定することはせずに、個別学力検査等(前期日程)の募集人員によって、その人員を充足します。以下の各学類・専門学群のアドミッション・ポリシーと併せて評価します(最新のアドミッション・ポリシーは学生募集要項で確認してください)。

自己推薦資料テーマ例

近年のAC入試で合格した先輩たちの自己推薦資料テーマです。AC入試は今まで行ってきた活動や研究に基づく自己推薦内容を評価する入試です。これらの例にとらわれず、思い切ったチャレンジしてみましょう。

●第1次選考(書類審査)

次の書類を審査し、第1次選考合格者を決定します。

調査書

志願理由書

志願の理由を800字以内で所定の様式に記述してください。

自己推薦書

あなたがこれまで主体的に、そして継続的に取り組んできた活動や研究の内容をもとに、自分の「問題発見・解決能力」を提示してください。また、大学でどのように学びたいのかを具体的に記述してください。分量・様式は自由です。

自己推薦書の根拠となる資料

これまでの活動や研究の過程で生まれたレポートや作品、制作物、賞状や証明書、活動の過程を記録したノートなどのコピーや写真を、自己推薦書本文の内容を補完する資料として添付することができます。

●第2次選考(面接・口述試験)

第1次選考の合格者に対し、30分程度の個別面接を実施します(必要に応じて延長される場合があります)。あなたが「自己推薦書」などで示したことを、あなた自身の言葉でさらに詳しく説明してください。また、大学で学びたいことについて、これまでの学習状況などについてもアピールしてください。

実施学群・学類	アドミッション・ポリシー	募集人員	自己推薦資料テーマ例
人文・文化学群	人文学類	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の伝承文化を学ぶ一川との死闘 ■ 神話と歴史の境界 ■ 「幸福」を巡る思索的活動 ■ 近代日本における宗教心の形成と「国家神道」 ■ 伝承の息づく場所としての郷土研究
	比較文化学類	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 和歌一研究と創作 ■ 日本の地方都市におけるコンパクトシティ実現の可能性 ■ 空間における天井画のあり方 ■ 民族の同一性 ■ ラジオドラマの特性を踏まえた表現の研究
	日本語・日本文化学類	3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語学習に役立つ「かるた」の作成 ■ 結婚適齢期一宗門人別帳から見た江戸期の初婚年齢等 ■ 日本語オノマトペの性質について ■ 書道と将棋の関連一源兵衛清安の起源
生命環境学群	生物学類	3	<ul style="list-style-type: none"> ■ エチレンがアリルイソチオシアネート生成量に与える影響 ■ センチュウの記憶と学習 ■ オオアメンボの水面波への応答について ■ 金属還元細菌の発電機構の探求
	生物資源学類	4	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地衣類の着生・成長と微環境の関係 ■ サヤミドロを使った製紙技術 ■ 微重力環境がトマトの成長と生活環に与える影響 ■ ビロールの電解重合
	地球学類	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 岩石・地質調査による兵庫県中南部の形成過程の研究 ■ 森林火災発生危険地域の把握のための新たな手法の開発 ■ 気象モデルのシミュレーション ■ 水質汚染による環境破壊の課題と展望



実施学群・学類		アドミッション・ポリシー	募集人員	自己推薦資料テーマ例
理工学群	数学類	数学に対する強い好奇心を持続的に有していることを重視するとともに、独自に課題を設定し解決する能力および基礎学力を総合的に評価します。	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 整数論入門教科書の作成 ■ 整数環のidealにおける剰余類環を用いたオイラーの定理の精緻化 ■ ガウス整数上における二平方和の定理 ■ 非整数階微積分について
	化学類	化学及び関連事項に対する強い関心を持ち、独自に問題を発見し、明確な目標のもとに主体的に学習し、問題解決する高い能力を総合的に評価します。	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポリアニリンの合成法の改良と活用 ■ 多価カルボン酸を用いた中和滴定のシミュレーション ■ 腐敗・発酵を利用した発電の研究 ■ シキミ酸全合成ルートの確立
	工学システム学類	本人からアピールされた、今までの経験、ものに継続的に取り組む態度、数学・物理の基礎学力とその運用力、論理的な文章を作成する能力、コミュニケーション能力に基づいて、技術者になるという明確な目的意識、並びに、興味の深さと広さ、積極性、行動力、表現力を評価します。	8	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロボカップジュニアに向けた製作と改善 ■ オジギソウのおじぎに続く反応の解析 ■ 眠気の数値化に関する研究 ■ ファンプロペラの表面加工による効率向上
情報学群	情報科学類	情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。	8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自作プログラミング言語の開発 ■ Webサーバの構築と管理 ■ ビジュアルプログラミング言語の改善 ■ バスの自動運転に向けたフィードバック制御の応用
	情報メディア創成学類	コンテンツやネットワークメディアを支える情報メディアの科学と技術において、研究課題を自ら設定する創造性と意欲、課題を緻密に分析し創造的に解決する問題解決能力、その過程および結論を論理的に説明できる能力を総合的に評価します。	4	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人を引き付ける短いメロディとは何か ■ アプリケーション開発を通じた情報の可視化 ■ 多分野における活動の集積による次世代の問題解決
	知識情報・図書館学類	社会における情報の伝達や知識の創造に関して幅広く興味を持ち、関連した課題を自ら発見し、分析・解決していく能力を評価します。課題の分析結果を論理的に説明することや、説得力のある提案ができることも評価します。	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ CGMを利用したインディーズゲーム業界の可能性について ■ 学校行事における情報メディアの利活用 ■ サブカル雑談を機械とできる将来 ■ 研究からの実践知 (UI/UX 研究)
体育専門学群		<p>A (問題解決型): ひとつの運動種目における優れた技能を重視し、自主的な実践活動における科学的知識の活用と論理的思考能力を多面的に評価します。</p> <p>B (競技力型): 抜群の運動技能を有し、日本代表として権威ある国際大会で活躍できる競技力を重点的に評価します。また、基礎学力と表現力についても総合的に評価します。</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> ■ 階級を変更した際の留意点について (柔道) ■ 50m マネキンキャリーにおける2つの潜水法に関する考察 (ライフセービング) ■ 平均ストライドや平均ピッチの変化によるタイム向上の要因についての考察 (短距離走) ■ 水球競技におけるフローターの重要性と強化 ■ オリンピック出場選手とのフォーム比較から得られる改善点 (競泳) ■ 日本代表チームキャプテンとして得られた成果と今後の課題 (バスケットボール)
芸術専門学群		問題発見・解決能力、行動力などの一般的能力に加え、芸術の専門領域に関する意欲、資質を評価します。	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「張猛龍碑」の臨書から学んだこと ■ デザイナー×エンジニア ■ 呉昌碩－中鋒平直の書一



小学校から取り組んだ研究を 受験で中断することなく 継続できた環境に感謝

筑波大学生命環境学群生物学類3年
阿部 真生子さん

■茨城県立水戸第二高等学校出身

継続的な指導を受けるためAC入試に挑戦

自 由研究のテーマに悩んでいた小学校4年生のとき、「カイコ無料配布」の新聞記事を見つけ、20匹のカイコを手に入れたのですが、これがまさに「運命的な出会い」でした。すべすべしていてかわいくて、いつまでも飽きずに見ていられるカイコ。この自由研究からすべてが始まったのです。飼育方法を試行錯誤するうち、飼育条件によってカイコの成長に大きな差があることに気がつきました。特に餌に加えるグラニュー糖の量との関係に興味をわき、その研究を続けたいばかりに、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に採択されている高校に進学しました。

自宅のリビングでカイコを飼育しながら独学で研究してきましたが、高校2年のとき、未来の科学技術人材を育成する「筑波大学GFEST」というプログラムに参加することができました。初めて専門家から研究の進め方などについてアドバイスを受けることができましたし、2カ月に1度はこのプログラムに参加している高校生がみんな筑波大学に集まり、講義や実験を行う機会もありました。仲間には科学オリンピックのメダリストなど優秀な高校生が多く、とても刺激的な体験でした。

GFESTは高校3年生の夏で修了するのですが、ここで研究を中断して受験に備えるのは、とても残念…。できることなら、このまま研究を続け、大学でも同じ先生に指導を受けたい…。その願いをかなえるため、AC入試に挑戦することにしました。年内に合格が決まり、入学後も研究活動を継続できる環境が用意されていたからです。面接では、GFESTでの経験が研究に大きな影響を与えてくれたこと、この大学で研究を続けたいという気持ちは誰にも負けないということを訴えました。

研究対象をショウジョウバエに切り替えた

入 学後は、すぐに研究室に入出入りできるようになり、最先端の実験機器を使うこともできるようになりました。生物学類には「研究マインド応援プログラム」という、AC生など学生時代に研究に力を入れたい学生を支援してくれる仕組みがありました。そこに参加することで、GFESTのときに指導していただいた先生から、継続的に指導を受けることができただけでなく、査読付きの学術誌に掲載される論文の勉強会に参加したり、大学院の授業を受講したりすることもできました。

さらに筑波大学には全学を対象とする「先導的研究者体験プログラム（ARE）」があり、こちらにも応募しました。研究計画書を提出して認められた1～3年次の学生が参加できるのですが、このプログラムも受けることができました。

論文投稿の支援のほか、研究費の一部も補助してもらえるため、研究の質を一段と高めることができました。

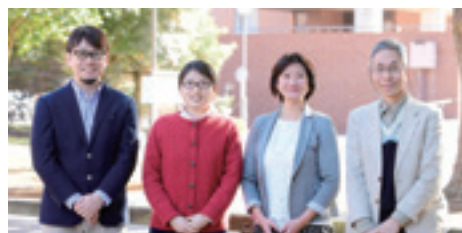
大学からは研究対象をカイコからショウジョウバエに切り替えました。糖の代謝を本格的に研究するなら、遺伝子レベルでの解析が必要不可欠。そのためには、遺伝子の機能を人為的に高めたり弱めたりする研究手法が非常に発達しているショウジョウバエが適しているからです。ショウジョウバエにもさまざまな種があります。あるとき、分類学的には非常に近い2種類のショウジョウバエを調べていて、糖の代謝の性質が近縁の種でも全く異なることを発見しました。そこで、それぞれの種における糖の代謝がどのように進行するのかを比較し、違いを生み出している原因は何かを探る研究に力を入れることにしました。

糖代謝の個性に関するメカニズムを解明したい

あ る程度、研究成果が出たところで、「サイエンス・インカレ」に応募しました。大学1年生のときにも応募しましたが、書類選考で落ちてしまったため、さらに研究の精度を高めて大学2年生で再挑戦したところ、見事、文部科学大臣表彰を受賞することができました。

現在、糖代謝の個性を生み出す遺伝子の候補をある程度絞り込むところまで研究が進んでおり、大学院進学も視野に入れながら、このテーマをずっと追究していくつもりです。そして将来的には、ヒトの糖尿病の予防などに貢献できるような研究成果をあげたいとも考えています。

このように、研究マインドを持った高校生には、入学後のサポートも含めてAC入試は最適な入試だと思います。ぜひチャレンジしてみてください。



左から研究指導員の丹羽先生、阿部さん、GFESTコーディネーターの尾嶋先生、サポート役の白川先生。



「サイエンス・インカレ」での文部科学大臣表彰式。研究の成果が認められた瞬間です。

国際科学オリンピック 特別入試



世界の科学技術を リードする人材をめざして

世界中の中等教育課程にある生徒（日本では主に高校生）が参加する、世界的な科学技術コンテストである「国際科学オリンピック」。

国際科学オリンピック特別入試は、同大会に日本代表として選抜された人、代表選考などで一定の成績を収めた人が対象となる入試です。明確な目的を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を、従来の試験とは違う観点から評価します。

アドミッション・ポリシー

国際科学オリンピックに出場した者、またはその代表選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価して選抜します。

国際科学オリンピック特別入試の概要

募集学類

- 生物学類 ●地球学類 ●数学類 ●物理学類 ●化学類
- 情報科学類 ●情報メディア創成学類

対象となるオリンピック

- 数学 ●化学 ●生物 ●物理 ●情報 ●地学 ●地理 ●その他*
- *情報科学類、情報メディア創成学類には、IPA「未踏IT人材発掘・育成事業」採択者も応募できます。

選抜方法

エントリーシートに基づいて、15分程度の個別面接により行います。
ただし、一部の学類のみ書類審査による第1次選考を行います。

各学類の出願要件は募集要項で確認してください。

【過去の実績】

	受験者数	合格者数
2019年	12人	6人
2018年	6人	3人
2017年	14人	7人
2016年	15人	7人
2015年	9人	4人
2014年	10人	5人
2013年	16人	7人
2012年	10人	7人
2011年	13人	9人

1年生から 研究できる!

先導的研究者体験プログラム (ARE)

筑波大学には、入学後も高校時代の研究を
継続できる環境があります!

先導的研究者体験プログラム (ARE) は、全学群の1～3年生が応募できる研究活動支援プログラムです。研究計画書を提出し、採用されれば、研究費と研究場所が提供されます。スーパーサイエンスハイスクール (SSH) での研究活動、理科や総合的学習における自主的な課題研究など、大学入学前から科学的な研究を行ってきた人はもちろん、大学進学後には研究活動をしたいと考えていた人も、文系・理系を問わず応募してください。



AREの研究発表会の様子

【過去5年間の申請および採択件数】

	申請数	採択件数(人)
2018年度	88件	56件(63人)
2017年度	67件	47件(49人)
2016年度	41件	41件(43人)
2015年度	45件	45件(50人)
2014年度	48件	45件(48人)

詳しくはWebをご覧ください。
<http://www.are.tsukuba.ac.jp>

AC入試 Q&A

Q. AC入試の選考で重視されるのはどんなことですか

A. 志願者の問題発見・解決能力を、最も重視します。

提出された自己推薦資料の内容をもとに、志願者の主体的・継続的な活動の中で、どのような問題の発見と解決があったのかを評価します。その際、活動の実績そのものを重視するのではなく、志願者がどのような工夫によってその実績を上げたのか、また、その実績をどのように認識しているのかを重視します。すなわち、結果に至る過程や、活動の「質」が重要になります。また、志願者が大学で学びたいことが、志願する学類・専門学群で学習可能か、志願先の研究教育内容と志願者の目的とが合致しているか、ということも重視します。人物評価の入試ではありません。

Q. 問題発見・解決能力のある人とは、具体的にどういう人ですか

A. 主体的な興味や関心から、自分自身の問題意識を育て、その解決に向けて独自の視点から工夫や努力を続けている人です。

例えば、物理や化学の実験、歴史の研究、生物の観察など続ける過程で、自分自身の問題意識をもち、さまざまに工夫しながらその問題に取り組んできた人です。また、生徒会活動、課外活動、ボランティア活動などの中で独自の問題意識を育て、解決に向けて工夫を続けてきた人です。このような人には「主体的に学ぶ力」という大切な学力が備わっていると考えられます。AC入試では、志願者がそうした活動続ける中で、何をどう考え、どう行動したのかを評価します。過去の合格者の自己推薦内容はwebページでも公表しています。

<http://ac.tsukuba.ac.jp/examination/report>

Q. 出願するにはコンテストや競技会での入賞歴や何らかの資格取得、検定合格などが必要ですか

A. 必要ではありません。

AC入試は資格や実績そのものを評価する入試ではありません。資格や実績の有無にとらわれず、これまでの自分の活動（研究、課外活動、趣味など）における問題の発見と解決の過程を具体的に提示することが大切です。問題解決の過程で取得した資格や合格した検定、入賞歴などがあれば自己推薦の資料に加えることはできます。その資格や検定が自分の活動の中にどう位置づけられるのか、きちんと説明できることが大切です。ただし、体育専門学群では運動競技の実績を、他の資料とともに重視して評価します。競技の実績がまったくなければ合格はさきめて困難です。

Q. SSH※などの共同研究の成果を自己推薦に利用できますか

※スーパーサイエンスハイスクール

A. 利用してもかまいません。

ただし、その共同研究において志願者本人が担当した部分や、志願者本人の具体的な貢献を、自己推薦書の中で明確に示す必要があります。他のメンバーが担当した部分や、他のメンバーが成し遂げた問題解決とはっきりと区別して、志願者本人の問題発見・解決能力が読み取れるように提示してください。

Q. 国際科学オリンピックでの成績は評価の対象になりますか。

A. AC入試は実績そのものを評価する入試ではありません。

志願者の活動における問題発見・解決の過程を重視して評価します。一方、国際科学オリンピック特別入試は実績を重視して評価します。

Q. 高校の成績（評定平均値）は重視されますか

A. 主として、入学後、支障なく学習できるかどうかを確認するために使われます。

合格者には、結果的に成績がよい人が多くっていますが、出願要件ではありません。

Q. なぜ、募集時期、選考時期が早いのですか

A. AC入試は、志願者の継続的な活動における問題発見と解決の過程を評価する試験であり、試験当日の偏差値的学力を評価するわけではありません。

したがって高校3年の早い時期でも適切な選抜が可能であると考えられます。「早く進路を決めて、入学までの時間でさらに自分の勉強を進めたい」という志願者を求めているのです。また、早めを実施することで、センター試験や個別学力検査への影響を最小限にできると考えています。決して早く学生を確保することが目的ではありません。このことは、合格者数が必ずしも募集人員を充たさないことから分かるものと考えています。

Q. 必ず募集人員どおりに合格者が決まりますか

A. いいえ。

ふさわしい志願者がいないと判断した場合は、合格者が募集人員より少なくなり、欠員分は個別学力検査等（前期日程）に振り替えられます。一方、AC入試で募集人員より多く合格することもあります。その場合でも、個別学力検査等（前期日程）の募集人員が減ることはありません。

Q. 筑波大学の推薦入試等と併願できますか

A. 推薦入試や個別学力検査等（前期・後期日程）と併願できます。

国際科学オリンピック特別入試、国際バカロレア特別入試とは併願できません。

国際科学オリンピック特別入試 Q&A

Q. 出願できるのはどのような人ですか？

A. 過去3年間に、国際科学オリンピックに日本代表として選抜された人や、国内予選で好成績を収めた人などです。

詳しくは学生募集要項（6月下旬公表）でご確認ください。

Q. 選考で重視されるのはどんなことですか？

A. 予選や本選での成績に加え、明確な目的意識や計画的に学ぶ意欲、入学後に必要となる学習適応性などです。

調査書やエントリーシート、15分程度の面接などを含めて総合的に可否を判定します。大学入試センター試験は課しません。

Q. 筑波大学の推薦入試等と併願できますか？

A. 推薦入試や個別学力検査等（前期・後期日程）と併願できます。

AC入試や国際バカロレア特別入試とは併願できません。

国際バカロレア特別入試 Q&A

Q. 国際バカロレア最終試験のスコアは何点以上で合格できますか？

A. スコアだけで可否を判定しません。

EE、TOK、CASの成果などに関する提出書類や、面接・口述試験と併せて総合的に判定します。

Q. TOEFL等、英語の4技能検定試験の結果も提出するのですか？

A. 英語を履修していれば必要ありません。

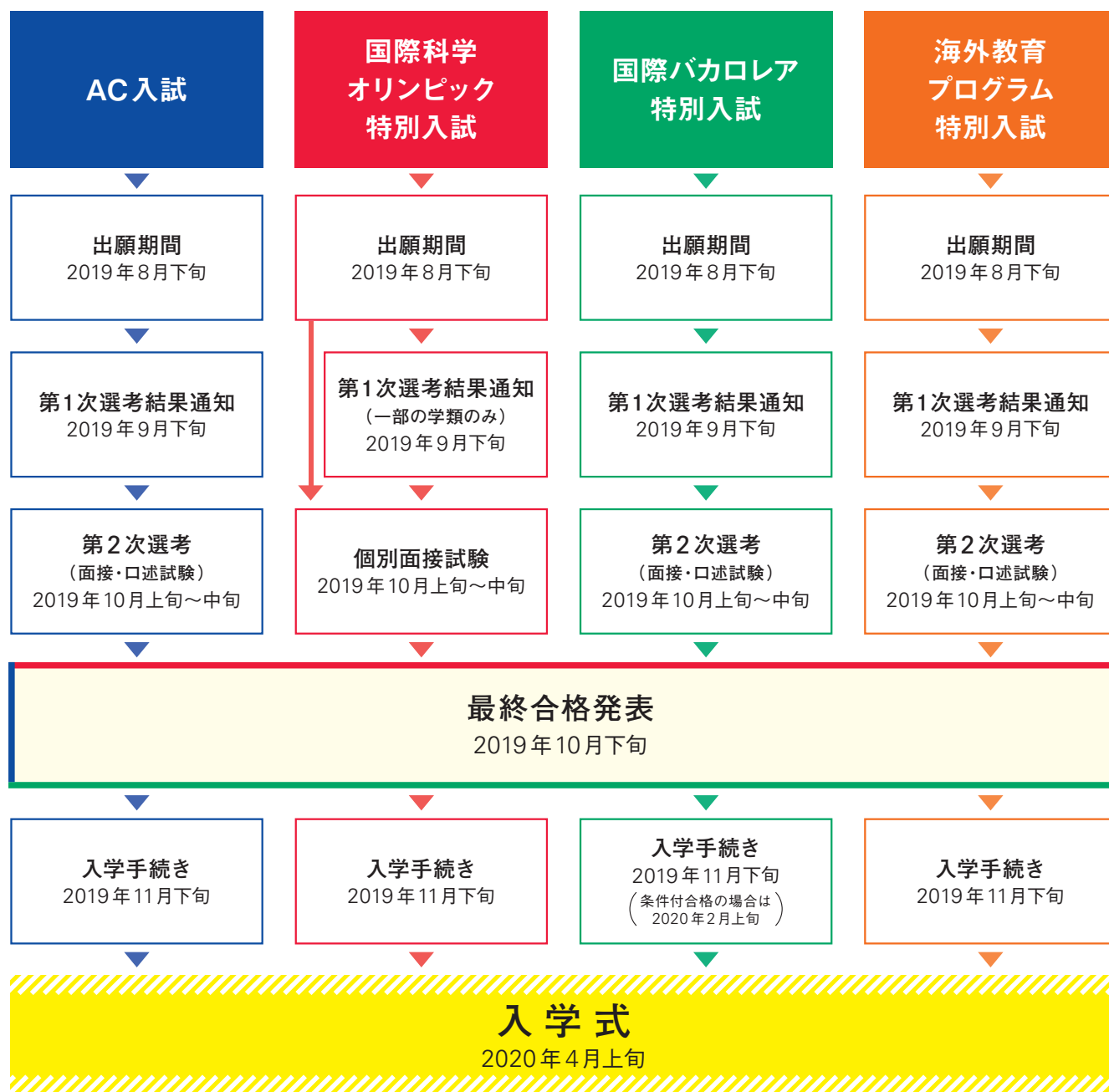
履修していない場合の扱いは教育組織ごとに違いますので、募集要項でよく確認してください。

Q. 筑波大学の推薦入試等と併願することはできますか？

A. 推薦入試や一般入試（前期・後期日程）と併願できます。

AC入試や国際科学オリンピック特別入試とは併願できません。

入学への歩み



学生募集要項の入手方法

- 各学生募集要項(願書)は、本学のホームページからダウンロードしてください。
http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/list_guidebooks.html
 (HOME ▶ 本学で学びたい方へ ▶ 入学案内・募集要項の一覧)
- その他、入試に関する資料の請求方法はこちらをご覧ください。
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/requests.html>
 (HOME ▶ 本学で学びたい方へ ▶ 募集要項(願書)等の請求方法)

TOPICS

- ① 医学類は、研究型人材入試を実施します。
 アドミッションポリシーや出願資格の詳細については募集要項で確認してください。
- ② 物理学類は、本年度よりAC入試を実施しません。

ガイダンス・進学相談、過去の「AC入試・特別入試ガイドブック」についてはこちらで ▶ <http://ac.tsukuba.ac.jp>

全学で実施

国際バカロレア特別入試

筑波大学では、国際バカロレアにかかる活動を支援するとともに、探究心をもって主体的に学び、信念をもって物事に挑戦し、世界的に活躍できる人材を育成するための入学試験として、全学で国際バカロレア特別入試を実施します。
(アドミッションポリシーや出願資格の詳細については募集要項で確認してください。)



国際バカロレア
「10の学習者像」

募集学群・学類、募集人員

すべての学群・学類：若干名（ただし医学類は3名）

選考方法

■ 第1次選考

出願時に提出された書類等により、第1次選考合格者を決定します。

■ 第2次選考

第1次選考の合格者に対して面接・口述試験を行い、提出書類等の内容を含めて総合的に判定します。

【過去の実績】

	受験者数	合格者数*
2019年	21人	5人
2018年	21人	2人
2017年	24人	4人
2016年	13人	5人

※ 合格者の出願先

- 2019年／人文学類、心理学類、生物資源学類、応用理工学類、医学類
- 2018年／生物資源学類、医学類
- 2017年／比較文化学類、心理学類、医学類、芸術専門学群
- 2016年／国際総合学類、物理学類、医学類、医療科学類、芸術専門学群

医学群医学類で実施

海外教育プログラム特別入試

筑波大学では、海外留学を支援するとともに、探究心をもって主体的に学び、信念をもって物事に挑戦し、世界的に活躍できる人材を育成するための入学試験として、帰国生徒や私費外国人留学生を対象とした海外教育プログラム特別入試を実施します。対象は、アビトゥア、普通バカロレア、Aレベル、SATを履修・受験した者です。
(アドミッションポリシーや出願資格の詳細については募集要項で確認してください。)

【過去の実績】

	受験者数	合格者数
2019年	8人	1人
2018年	8人	0人

募集学群・学類、募集人員

医学群医学類：2名

選考方法

■ 第1次選考

出願時に提出された各教科の成績評価や書類等により、第1次選考合格者を決定します。

■ 第2次選考

第1次選考の合格者に対して面接・口述試験を行い、提出書類等の内容を含めて総合的に判定します。

医学群医学類で実施

研究型人材入試

筑波大学では、自然科学において自ら発見した課題に対し、自主的・積極的・継続的に取り組み、その結果、到達した高い成果を評価する新たな入学者選抜を実施します。対象は、日本学生科学賞等で優秀な成績を収めた者、国際科学オリンピック等で優秀な成績を収め、自らも研究を行った者、各自で優れた理系の研究を行った者のいずれかに該当し、将来研究者を目指す者です。
(アドミッションポリシーや出願資格の詳細については募集要項で確認してください。)

受験生のための筑波大学説明会

カリキュラム説明や模擬授業、施設見学なども行います。この機会にぜひ、筑波大学を体験してください。申し込み方法など詳細はホームページで6月上旬頃にお知らせします。

<http://www.tsukuba.ac.jp>

アドミッションセンター

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL.029-853-7385 FAX.029-853-7392
<http://ac.tsukuba.ac.jp>

詳細は筑波大学
ホームページへ

筑波大学 で 検索